

令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第7号

令和2年9月2日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：モモせん孔細菌病（本年度3回目の注意報発表）
- 3 対象地域：全域
- 4 発生量：多い

(1) 予報の根拠

ア 7月下旬の調査において、果実での発生ほ場割合が平年より高く（過去10年で最も高い数値）、発病果率の高いほ場も見られました（図1）。

イ 8月下旬の調査において、新梢葉での発生ほ場割合が平年より高く（過去10年で最も高い数値）、発病葉率の高いほ場も多く見られました（図2）。

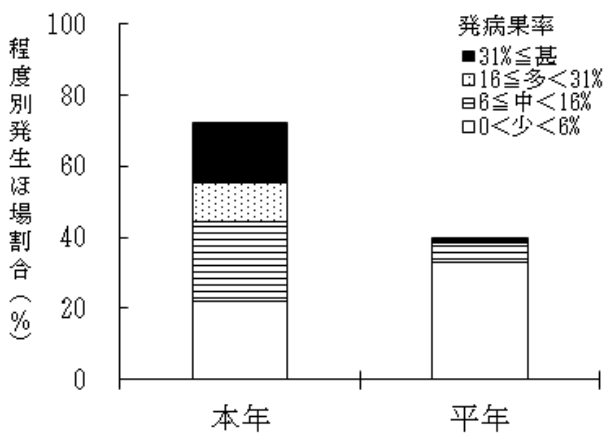


図1 果実での発生状況（7月下旬）
（調査地点：県北9園地、伊達9園地）

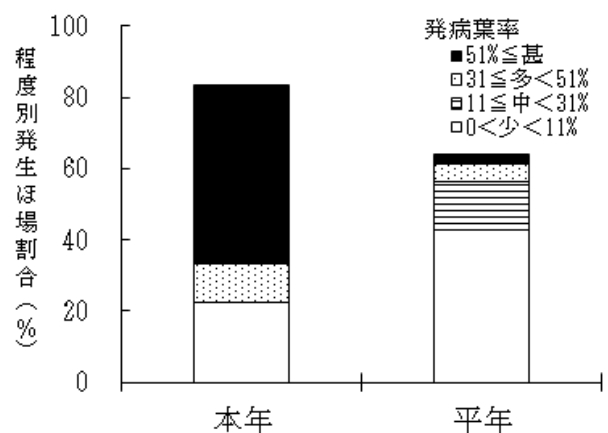


図2 新梢葉での発生状況（8月下旬）
（調査地点：県北9園地、伊達9園地）

(2) 防除対策

発病葉からの感染により翌春の春型枝病斑の多発が懸念されます。

秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図り、次年度の発生防止に努めましょう！！

ア 秋期防除の徹底

- ・ 9月上旬以降2週間間隔でボルドー液などの銅剤による**秋期防除を3回実施しましょう。**
高温時の散布は薬害を生じる可能性があるため、注意してください。
- ・ 秋期防除を実施する前には、あらかじめ秋季剪定を実施し、薬液がかかりやすいよう改善した上で、散布ムラがない丁寧な散布を心がけましょう。
- ・ 台風等強い風雨が予想される場合、落葉痕からの感染が多くなるため、台風通過前等に防除を実施しましょう。

イ 物理的防除等の実施

- ・ 風当たりの強い園地で発生しやすいため、防風対策が重要です。台風の発生が多い季節を迎え、防風ネットを既に設置している園地では、展張し網の点検・補修を行いましょう。防風ネットを設置していない園地では、次年度に向けて設置を検討しましょう。
- ・ 樹勢の弱い樹で発生しやすいため、肥培管理などにより樹勢の維持を心がけましょう。
- ・ 雨よけ栽培は防除効果が高いため、例年発生が多い園地では導入を検討しましょう。

● 情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）でもご覧になれます。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727